令和６年　年頭のご挨拶　　理事長　平野　将告

明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
皆様におかれましては、新たな気持ちで清々しい新年をお迎えのことと存じます。

今年の干支は甲辰(きのえたつ)「春の日差しが、あまねく成長を助く年」とのことです。春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ急速な成長と変化を誘う年といわれ、今まで準備してきたことが形になる、新しいことを始めて成功するといった縁起のよい年になると伝えられているそうです。前回の甲辰は昭和 39 年の東京オリンピックが開催された年で、この年から日本のモータリゼーションが進んでいったとされています。そして令和６年、車体整備業界においても 60 年前のモータリゼーション元年に匹敵する新時代の幕開けを予感させる１年になりそうです。これからの１年に思いを馳せると、あらためて身が引き締まる思いです。

令和２年４月１日に施行された「特定整備認証」取得準備期間として与えられていた４年間の猶予措置も本年３月末で終了します。この４年間、取得への支援を各理事・各委員会・事務局でサポートし、車体整備士取得も含め皆で助け合い様々なハードルを乗り越えてきた結果、取得希望者のうちほぼ全ての事業所において認証取得が実現しました。「特定整備認証」は今後も車体整備業を続けていくにあたり必須の資格ですが、忘れないでいただきたいのは、取得がゴールではありません。日々進化する車両システムに対応していけるよう、講習等の形で実務に活かせる情報を引き続き発信していきますので、知識の積極的なアップデートをお願いいたします。

そして、損保業界に対する長年の課題となっていた「指数対応単価の適正化」において、その現状が金融庁や国交省等各省庁の目に留まったことで日車協連が団体交渉に向けて動き出しました。これは業界全体の意向として取り組んでこそ実現に近づける課題です。皆様にご協力を仰ぐ機会もあるかと思いますので、その時にはよろしくお願いいたします。但し、各事業所においての実際の適正な金額交渉には、それに伴うエビデンスを土台とした交渉技術も必要となってきます。そのアドバイスも行えるよう対応していく所存です。

また、昨年は事故車修理に関するニュースが大きな波紋を呼び、志高く事業運営を行う我々にとっては残念な形でエンドユーザーに車体整備という職業がクローズアップされました。一般認知度が低い業種ゆえに、健全な運営をしていてもエンドユーザー側からすると不安を抱きやすい側面があることも否めません。しかし、数ある自動車関連業の中でも高度な技術力を要する「車体整備」という誇れる仕事を認知してもらう好機と捉えることもできます。各事業所においても適切な作業や理解を得やすい修理内容の説明はもちろん、一層のコンプライアンス遵守の強化やエビデンスの提示等、ユーザーに信頼と安心感を与える運営の工夫をお願いいたします。

コロナ禍の余波や先を見通し難い世界情勢による物価高騰・部品供給の不安定に加え、新型車のさらなる精密機器化による整備知識の更新等、今日の車体整備業の運営にあたり苦慮されていることも多いかと存じます。

そんな今だからこそ、岐車協に属する「スケールメリットの魅力」を実感いただき、「組合に入っていてよかった」と心から思っていただけることを確信しています。志を共にする組合員同士で寄り添い支え合いながら「岐車協の力」で車体整備業界の新時代を創っていきましょう。

本年も当組合員・賛助会員の皆様にとって良き一年でありますよう心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。